

トンパ文字の構造原理とビジュアル・コミュニケーションデザインに関する研究 RESEARCH ON DONGBA CHARACTERS AND VISUAL COMMUNICATION DESIGN

黄 國賓	デザイン学部ビジュアルデザイン学科 准教授（文責）
杉浦 康平	アジアデザイン研究所 所長
赤崎 正一	デザイン学部ビジュアルデザイン学科 教授
今村 文彦	基礎教育センター 教授
荒木 優子	デザイン学部ビジュアルデザイン学科 教授
山之内 誠	デザイン学部環境・建築デザイン学科 准教授
さくま はな	先端芸術学部クラフト・美術学科 助教
曾和 英子	デザイン学部プロダクトデザイン学科 非常勤講師
Kuo-pin HUANG	Department of Visual Design, School of Design, Associate Professor
Kohei SUGIURA	Research Institute of Art and Design, Director
Shoichi AKAZAKI	Department of Visual Design, School of Design, Professor
Fumihiko IMAMURA	Center for Liberal Arts, Professor
Yuko ARAKI	Department of Visual Design, School of Design, Professor
Makoto YAMANOUCHI	Department of Environmental Design, School of Design, Associate Professor
Hana SAKUMA	Department of Crafts & Arts, School of Progressive Arts, Assistant Professor
Eiko SOWA	Department of Product Design, School of Design, Adjunct Lecturer

要旨

本研究は中国雲南省の麗江地区を基軸に、トンパ文字とその特異な造形、宗教的背景を明らかにし、トンパ文字の構造原理と新たなビジュアル・コミュニケーションツールを開発するための基盤研究を確立する。

本研究はトンパ文字の造字原理の考察をはじめ、現地でのフィールドワーク調査、トンパ文字を再デザインする仕組み、また、先例の視覚言語の表現や漢字の構造をも分析の視野にいれ、トンパ文字の表現の可能性について研究を行った。

その結果、以下の結論を得た。すなわち、トンパ文字は象形文字であるため判読がしやすく、時間軸、空間軸、動詞などの記号を組み合わせれば、トンパ文字としての視覚言語のシステムを構築する可能性が高いと示唆した。

一方、文字としての記述、伝達の機能が欠け、覚えにくいということが最大の欠点であり、漢字の変遷原理を探究すれば、書きやすく、覚えやすいトンパ文字が作られると考えられる。

Summary

With the focus on the Lijiang area of Yunnan Province, China, this research looks into Dongba characters, its unique shapes and religious background. This is in order to establish a basic research for Dongba characters and the development of new visual communication tools. This study involves the consideration of the principle of Dongba characters and the fieldwork regarding the surroundings where the characters are actually used and its mechanism of the characters in order to re-design the Dongba characters. By considering the representation of the visual language of precedent and the structure of Chinese characters, the research also attempts to explore the possibility of the Dongba characters as a form of expression. The research was concluded as follows. Because of its readability of Dongba characters, Dongba character as a system of visual language could be created by jointing spatial axis, verbs and other representatives of symbols accordingly. On the other hand, there are some drawbacks such as difficulties in writing, transmitting and memorizing the characters. These however could be solved by applying the principle of Chinese characters which are easy to write, to transmit and to remember.

1) 研究目的

トンパ文字とは中国雲南省麗江地区ナシ族の宗教儀式のトンパ經典で用いられる象形文字であり、現在も日常的に使われていることから、生きている象形文字として世界に注目されている。トンパ文字の研究においては、これまでその造形的特質とビジュアルコミュニケーションデザイン(ピクトグラム・文字)との表現の可能性についての学際的視点に立った系統的な調査、分析が見られないのが現状である。本研究は中国雲南省の麗江地区を基軸に、トンパ文字とその特異な造形の背景を明らかにし、トンパ文字の構造原理と新たなビジュアル・コミュニケーションの表現の可能性についての基盤研究を確立する。



図1 和志武氏にインタビューを行った様子

2) フィールドワークによる調査

本研究の一環として2013年8月12日から8月17日にかけて、トンパ文化研究所、トンパ博物館、白沙村、麗江古城におけるトンパ文字の研究、使用する状況を取りあげ、黄國賓 / さくまはな / 曾和英子3人が現地調査を実施した。なお、調査にあたっては、主としてトンパ文字の構造原理、トンパ文字と色の表現を確認し、写真、映像による記録を行い、トンパ文字の翻訳者の李枝春氏(50才、トンパ文化研究所)とトンパ(祭司)の和志武氏にインタビューを行った。

トンパ文字の造字原理は漢字と同様、おおそ「象形」「指事」「形声」「会意」「転注」「仮借」6種類に分類することができるが、色で意味が変わる文字もあるため、筆者はさらに「黒字」「色字」2種類を加え、合計8種類を分類する。

3) トンパ文字の造字原理

トンパ文字の造字原理は漢字と同様、おおそ「象形」「指事」「形声」「会意」「転注」「仮借」6種類に分類することができるが、色で意味が変わる文字もあるため、筆者はさらに「黒字」「色字」2種類を加え、合計8種類を分類する。

①象形: 物の形をかたどって素朴な表現方法で字形を作る。



②指事: 数量や位置、状態などの抽象的概念を字形に表す。



③形声: 音を表す音符と意味を表す意符を合わせて字を作る。



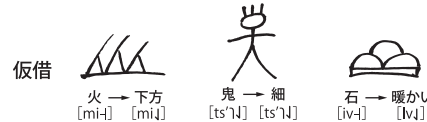
④会意: 二字以上のトンパ文字を組み合わせて、同時にそれぞれの意味をも合わせて新しい意味を表すトンパ文字。



⑤転注: あるトンパ文字の本来の意義に別の要素を加えて、他の近似した意義に転用すること。



⑥仮借: ある語を表すトンパ文字がない場合、その語の意味とは無関係の別の同音・類字音のトンパ文字を借用する。



⑦黒字: 文字に黒で塗り付け、物の色状態が黒であることを表す字である。大、毒、悪い、暗黒、鬼、身分が低いなどを表す場合にも使われ、不吉な意味合いから、黒に修飾された文字には多くの場合は悪い意味がある。



⑧色字: 色を使って文字の意味を補うこと。赤: 情熱的、優しい、黄: 社会地位高い、青: 敦厚を表す。

4) トンパ文字と色の表現

『納西象形文字譜』によると、ナシ族の象形文字のトンパ文字における基本色名は、黒・白・赤・黄・緑の五つがある。それぞれの色名の意味と由来については、以下のように説明している。ここでは、その記載に基づきながら、李枝春氏、和志武氏にインタビューを行った内容を踏まえて、以下のようにまとめる。

- 𠃉 naɿ 黒。チベット語より借用。同音。「黒」=炭「墨」。他の字と組み合わせて「大」「黒」「毒」「苦」を意味。
- 𠃉 páɿ 白=乳。上の𠃉 páɿは音を示し、元々は「解く」の意味。下の部分が乳製品を意味する。略して𠃉 páɿと書くことも。
- 𠃉 dzæɿ 雑色。斑(まだら)で、不純。
- 𠃉 hɿɿ 赤。「火」の字を借用しているが、発音は異なる。

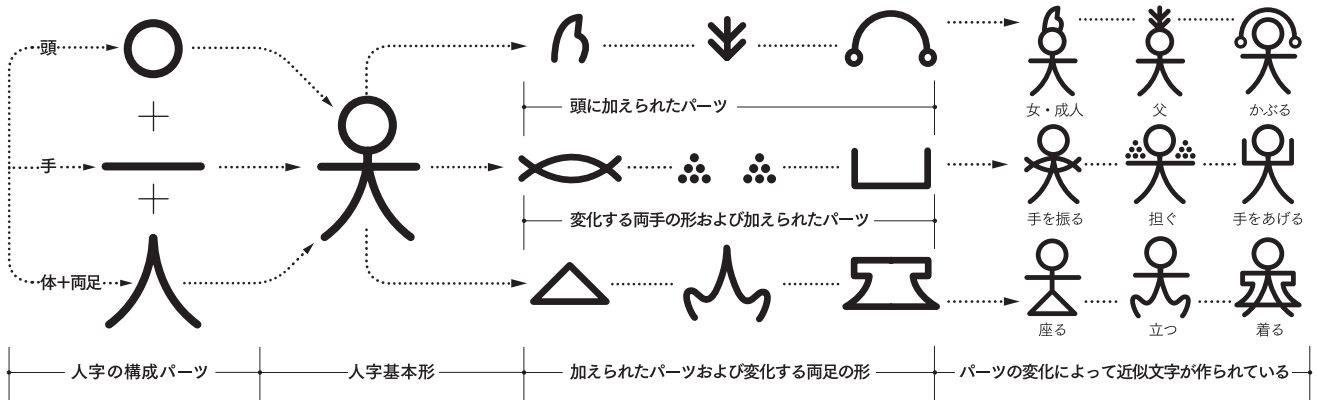





図2 トンパ文字「人」字の基本形構造

 *xiɿɿ* 「黄色」=「金色」。「金」の発音とは異なる。
 *harɿ* 緑色。「緑松石」の字を借用しているが、発音は異なる。

このように、トンパ文字における色名は、黒は「炭や墨」と同音同形、白は「乳」と同音同形、赤は「火」と異音同形、黄色は「金」と異音同形、緑は「緑松石」と異音同形となる。そして、黒の場合は、チベット語の同音の字を借用することもあるという。黒がチベット語の字を借用している場合を除く、トンパ文字の色名は、ほとんどその色を連想させるモノを表す文字を用いていることが明らかになった。

今回の調査では、以上の五つの色名のほか、「青」と「紫」を表す文字についても、以下のような情報を得た。

 *piəɿ* 青。李枝春氏によると、「青」は「貝」と同音(上) *bæɿmæɿ* の音) 同形であるという。しかし、和志武氏は「青」を示す文字はなく、「緑」と同音同形の文字を使用するという。

5) トンパ文字を再デザインする仕組み

再デザインとなるトンパ文字は主に「超漢字トンパ書体」に収録されている人間(人稱、役職、身体など)、動物(鳥、獣、虫など)、生活(道具、器具など)、自然(天気、季節、土地など)、植物(樹木、花、果実など)の判別性が高く、象形性が強い文字を対象とした。それらのトンパ文字を抽出、分類しながらトンパ文字を再デザインする作業を進めた。

多くのトンパ文字は基本とする標準の構造が備えられ、字形の構造がいくつかのパーツによって組み立てられている。文字を構成するパーツが変わることによって、基本の字形の意義と近似した文字が作られている。

本研究におけるトンパ文字を再デザインすることにあたって、



図3

米字のグリッド構造を用いて文字の基本の形の構造を分析しながら制作を行った(図3)。文字の基本構造の完成次第、再度、トンパ辞典を参照し、その文字の構造と類似した文字を調べ、パーツを変えると意味も変わってくる文字を抽出した。

例えば、図2はトンパ文字の「人」字の基本形であるが、「頭」「手」「体+両足」3つのパーツで組み立てられている。この3つのパーツの上にそれぞれのパーツを加えることで形を変化させることで「人」字の意味と異なる近似した文字が作られる。

こうした方法は同体系としての文字が系統的に纏められる以外、加えられたそれぞれのパーツ(記号)の意味も読み取りやすく、それは今後の新たなトンパ文字を考案、また言葉としてのコミュニケーションの記号をデザインする際にも役立つと考えられる。

6) 先行例にみられた視覚言語(絵言葉)

視覚言語としてのトンパ文字の可能性を探るにあたって、本研究においては、視覚言語(絵言葉)に関わる先行例の文献、資料をも分析し、研究を進めた。

これまで、視覚言語(絵言葉)に関する表現はヨーロッパ、中近東、南北アメリカ、オーストラリアなどに分布するホボという放浪民族がチョークで壁などに書き込む、仲間だけにわかる記号として使われているホボサイン言語やオーストリアの哲学者・教育者オットー・ノイラートが考案した国際絵言葉のアイソタイプ、チャールズ・K・ブリスが考案した疾患により言葉が話せず、音声言語では意思疎通ができない人々にとっての補助・











代替コミュニケーションの手段としてのセマントグラフィー視覚言語、また、太田幸夫氏の考案によるロコス (LoCos) と呼ばれる絵文字システムがあげられる。

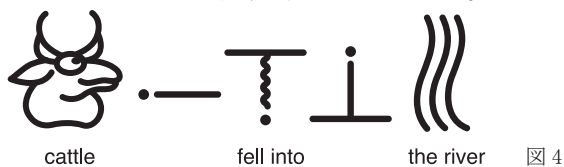
特にロコスは単純な幾何学形態が 19 種の絵素を組み合わせることで単語を作り、動詞は主部と述部を関係づけるものとの解釈によって「～する」を-で表し、「～した」を・-で表し、「・・・するだろう」を-・で表す。

7) 視覚言語 / 文字としてのトンパ文字を表現する可能性

トンパ文字とビジュアルコミュニケーションの表現の可能性について、本研究においてはトンパ文字を視覚言語 (絵) としての表現と文字 (漢字に似た形態) としての二つの表現を提示した。

7-1) 視覚言語としての表現の可能性について

上述のロコス絵文字システムの構成原理に基づき、本研究においては時間軸 (—現在、・—過去、—・未来) の記号を表す以外、さらに、上、下、左、右、東、西、北、南、あがる、落ちるなどの空間軸、動詞記号を表した。また、英語に準じて左より主語+述語と並び、視覚言語としてのトンパ文字の表現の可能性を試みた。例えば図 4 における牛と川は本来関係ない二つの言葉だが、「牛は川の上に落ちた (The cattle fell into of the river)」という動詞 (～する) を付け加えると二つの言葉の関係が付けられる。

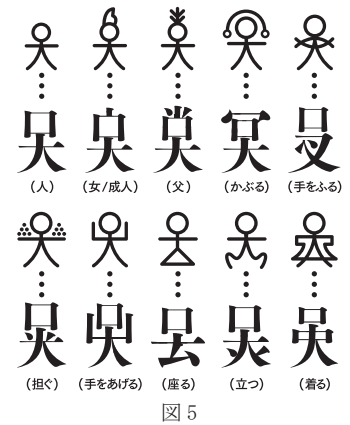


7-2) 漢字形態と似た表現の可能性について

近年、麗江では観光化が進んだ結果、ナシ族語を使用する機会が減少している。一方、本来あまり普遍的ではないトンパ文字の使用頻度はさらに減少している傾向があり、ナシ族の伝統文化への伝承にとっては大きな障害となっている。それはトンパ文字自体が象形 (絵) であるため、文字としての記述、伝達の機能に欠け、覚えにくいという欠点最大の理由であろうと考えられる。

漢字書体は本来の象形性を保ちながら、時代のニーズによって甲骨文、金文、篆書、隸書、楷書、そして現代の草書などの形に変遷していった。3 節に述べたように、トンパ文字の造字原理は「象形」「指事」「形声」「会意」「転注」「仮借」6 種

類に分類でき、漢字の造字原理と酷似する。トンパ文字を普遍的に後世に押し広めるために、本研究ではトンパ文字の形態を漢字と同様、さらに簡略化させ、書きやすく、覚えやすい形態に進化させる必要がある



と考えた。図 5 は取り上げられたトンパ文字の人手字例であり、漢字の構造を参照に作られた漢字風の文字である。いずれもトンパ文字本来の象形性を保っている。

8) まとめ

本研究はトンパ文字の造字原理の考察をはじめ、現地によるフィールドワーク調査、トンパ文字を再デザインする仕組み、また、先例の視覚言語の表現や漢字の構造をも分析の視野に入れ、トンパ文字の表現の可能性について研究を進めた。象形文字としてのトンパ文字は判読性が高いため、視覚言語を表現するものとして、学習負担が軽く、短時間以内でマスターできるという利点があるが、煩瑣な絵文字の字形は言語記号と表現としてはふさわしいとは言えない。今後は煩瑣な字形を再デザインし、ロコス絵文字システムに基づきながらトンパ文字としての視覚言語のシステムを構築したいと考える。

一方、漢字形態と似たトンパ文字の表現に関する研究は、漢字の変遷原理と関わる「文字学」の調査をさらに行い、それをトンパ文字の形態、意味と比較し、分析する必要がある。しかし、ここではひとまず、本研究に提示した視覚言語 (絵) としてのトンパ文字表現と文字 (漢字似た形態) としてのトンパ文字表現の二つ仮説を本研究の基盤研究の成果として位置づけ、今後はそれをベースにトンパ文字とビジュアルコミュニケーションデザイン表現の可能性についてさらに深く探究したいと考える。

参考文献

- 1) 李静生、『纳西東巴文字概論』、雲南民族出版社、2008
- 2) 王超鷹、『トンパ文字』、マール社、2006
- 3) FOMS 編著、『目で見ることばのデザイン』、遊子館、2010
- 4) 太田幸夫、『ピクトグラム「絵文字」デザイン』、柏書房、1993
- 5) 和志武、『纳西象形文字譜』、雲南人民出版社、1995